

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立草加南高等学校)

目指す学校像 (教育方針)	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、社会に貢献する人材を育成する
重点目標 (努力点)	1 授業の工夫・改善を進め、生徒の学習習慣を確立し、学力の向上を目指す。 2 生徒一人一人に応じた進路指導の充実により挑戦する意識を育て、それぞれの自己実現を伸長する。 3 外国語科併置の特色を生かし国際理解教育を推進するとともに、地域への広報を推進する。 4 きめ細かい生徒指導を図り、自他を大切にすることを育むとともに部活動等の活性化に努める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	6名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月12日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	多くの生徒がまじめに授業に取り組んでいるが、学習内容の定着と家庭学習時間に課題がある。 学力向上の成果は十分ではない。 さらに学習支援を強め、生徒の学力を伸ばす。	授業改善による学力向上を進める。 家庭学習や放課後学習等の自主学習の時間を増やす。	①教員の授業相互見学、年次研を活用した授業研究により授業力向上の取組みを進める。 ②「学力向上重点推進校」の取組みで1、2年生全員に英語多読指導を行う。 ③週末課題、朝学習、自習室の設置等により学習時間を確保する。 1年生にSS(Self study)シートを用いて日々の学習を評価する。	①スタディーサポートの結果 ②多読の目標語数達成状況・模試等による英語力の向上 ③アンケート(7月・12月実施)による学習時間増加	①84%の生徒が授業の工夫を評価。英語の未知語の推測や長文読解力向上。国語の基礎力(語彙や文法等)も伸張。 ②多読語数普通科(2年5万1千2万)外語科(2年15万1千7万)をほぼクリア。 ③家庭学習を全くしていない生徒数は昨年度比-4%。学年経年変化でも、毎日学習する生徒が5%増加。SSシート(1年生通年、2年生考査前活用)、朝学習(1年)の効果が出ている。	B B	教科担当により指導に差が出ないよう連絡調整を一層丁寧に行う。 多読指導の継続と指導時間の確保が課題である。 12月アンケートで、3年生の進路決定後の学習時間が減少する傾向があった。「学びを止めない」指導の継続、1学年で始めた朝学習等良い取組の拡大が課題。
2	9割以上の生徒が進学志向であるが、安定志向である。 生徒に、高い進路意識を持たせ、第一志望の進路実現のために、系統的できめ細かい進路指導を推進する。	生徒が自分の進路を積極的に決定できる力(意欲・判断力・行動力)をつける。 学力をつけて高い目標に挑戦する生徒を増やす。 [前年度比]	①キャリア・学力アップ事業への参加者を増やし、学ぶ集団の核を育成する。 ②「夢授業」「大使館発」等外部講師や卒業生による講演会、ガイダンスを通してキャリア教育を深める。 ③模擬試験結果や資格取得を活用し学力の変化に注目させて進路実現意欲を高める。 ④実力を伸ばす進学補習・サテライン等きめ細かい指導を行うとともに、「勉強する場」を整備する。 ⑤勉強マラソン(春休3日間)や勉強合宿(夏休)に積極的に取り組み、切磋琢磨による競争力を育てる。	①キャリアアップ事業参加生徒数の増加(前年度比) ②アンケートの満足度 ③当初模擬試験結果とその後伸び率や資格取得状況 ④各受講者・センター試験出願者数と生徒からの進路指導評価(アンケート) ⑤勉強マラソン等参加者数増(前年度比)	①事業参加者16名(昨年度比+3) ②生徒の約8割が学校生活に積極的、6割が進路実現に努力。「カリア」を活用しグループ協議(1年)クラス協議(2年)を1月に実施。生徒意欲を喚起。 ③英検2級10名・準2級13名、漢検2級6名・準2級14名合格。計画的な目標として成果を出している。 ④進学補習は40名を超える講座もあり、盛況である。センター試験108名出願。84%が学校のサポート体制に満足しており、62%が教員の評価に納得している。 ⑤勉強マラソン参加者20名(昨年度比+4)	B B	事業指定終了のため、次の取組計画を検討する必要がある。自分の進路に向けて十分な努力をしていない4割の生徒への働きかけが課題。先輩や大学生の活用が効果的。 生徒・保護者ともに大学等への推薦入学など安全志向が強い。一般入試への理解と挑戦意欲を高める工夫が必要である。 希望の進路に向けて努力する生徒が6割に留まっていることから、段階的な目標設定や、自信をつけさせる取組、校外模試の活用などの検討が必要である。
3	外国語科併置校の特色を活かし、国際理解教育を強く推進している。この特色ある教育活動を広く広報するとともに、地域社会への貢献を進める。	国際理解教育活動の推進と地域への貢献を促進する。	①海外語学研修・交換留学生の受け入れ等を通じて生徒に異文化を体験させる。 ②地元小中学校への生徒による授業補助、教員による出前授業を積極的に推進する。	①事業参加生徒の満足度 ②事業実施回数・児童生徒からの評価	①海外研修30名参加。さらに語学研修増を求める積極的意見多数。Nack5スポーツ留学1名。留学予定4名。挑戦する生徒が増加。 ②生徒による小学校英語授業補助(7、12月)中学校数学補助(7月)、教員による中学校出前授業(5回)、新規依頼の進路出前講座も実施。高評価。	A	ロータリークラブとの関係で交換留学制度を構築できた。今年度からのドイツ政府留学制度の活用等、挑戦の火を絶やさないようにする。外国語科併置校の特色を地域に還元する試みを継続する。
4	部活動や生徒会活動、学校行事に熱心に取り組む生徒が増えつつある。 活発に取り組む生徒を増やし、学校生活をより豊かにする。	自他を大切にすることを徹底する。 部活動への積極的な加入をうながすとともに、学校行事等での生徒の満足度をより高める。	①挨拶の励行を徹底する。 チャイム始業を徹底する。 ②自転車マナーを徹底する。 ③心の悩みを抱える生徒に対し、特支教育手法に学ぶ研修会を行う。 ④保護者と協力し、部活動や各行事の実施環境を整えるとともに、外部指導者の活用で部活の活性化を図る。	①遅刻者数の減少(前年度比) ②登下校時の自転車事故件数の減少(前年度比) ③研修会(特別支援教育手法)の実施 ④部活加入率(85%)、生徒・保護者アンケートの満足度、保護者の行事参加数	①1年生の朝学習取組の成果で、遅刻数が減少し、落ち着いて学校生活をスタートできている。 ②自転車事故件数17件(昨年度比+6)飛び出しによるものが多い。 ③専門機関と連携した指導を行ってきたが、研修会は開催できず。 ④部活加入率86%。80%の生徒が学校生活に満足。関東大会・全国大会・国体での活躍や進路実現が他の部活の刺激となった。	B A	1年生の成果を次年度に引き継げるとよい。 登校時の自転車事故が多く、ゆとりを持った運転をさらに指導する必要がある。 より細かな指導に向けて、ぜひ研修の機会を設けたい。 生徒84%、保護者94%が本校への入学に満足。学年経年変化で満足度が増加している。これを継続したい。

実施日 平成 年 月 日

学校関係者からの意見・要望・評価等

多読指導の試みはすばらしい。先生方の負担も大変だと思うが、生徒の力になっていると思う。
朝学習も習慣化しているのはとてもよいこと。早起きは時間を有効に使えるのでぜひ頑張って欲しい。

家庭での学習になかなか集中しないのが悩みである。わからないところがあっても遠慮してなかなか先生方を活用しないので、もっと生徒に声をかけてもらえると聞きやすい生徒も出るかもしれない。
大学生の講師から、進路決定の経緯や悩みや挫折の経験を聞くのは、高校生が進路を考える上で非常に参考になっているので良い試みではないか。
来年度1、2年生で導入するというインターネットを利用した教材を、3年生の希望者にもやらせてもらえるとよい。

自分で何かをやるようとする気持ちを持つ生徒が増えてきたということ。すばらしい傾向であり十分価値のある評価である。亜細亜圏の言語を選択科目として設定してみるのはいかがでしょうか。
人に教えることは、本人が一番勉強することにつながる。生徒達の出前授業の経験は、なによりの財産になっている。これからも大切に継続してもらいたい。

朝学習等で8時半までに登校させるのは、スクールゾーンの規制時間が8時半までであるから、安全面からも非常に良いことである。安全な時間帯に登校させて事故を防止するよう、ぜひ続けてもらいたい。
緊急メール配信システムで学校行事の様子や通知を配信するのはどうか。
運動部の活躍が素晴らしい。文化部の活性化のため、外で活躍できる場の確保や広報の面で地元谷塚の公民館などの連携を図ってはどうか。